

平成20年度「小中高 夢のかけ橋推進事業」実施報告書

東京都立文京高等学校

全日制課程

1. 計画の概要

本校における本事業の取組は、平成16年度に都教育委員会より連携推進校の指定を受けて以来、継続実施している。本事業の目的を、①小・中・高連携の取組を通じて、異年齢・異校種交流の機会を増やし、思いやりや、社会性、協働性などの豊かな人間性を育成すること、②地域との連携を図り、「開かれた学校づくり」を進めることで、本校の理解と信頼を高めることとして取り組んできた。

今年度は、昨年度の連携校（豊島区立西巣鴨第二保育園、豊島区立巣鴨北中学校、豊島区立西巣鴨中学校、都立中央ろう学校など）との連携を一層充実させ、できるだけ多くの生徒がいろいろなかわりをもてるようにこの事業の計画を立案し、実施した。

連携校は異校種であるとともに、各々の学校の事情から、日程調整が困難であったり、学校の特色を生かすための工夫が求められたりすることもあったが、担当教員の尽力と関係者の協力により、双方の学校運営に支障を来すことなく実施できた。

2. 実施内容

(1) 中学生交流会と題して、中学2年生を対象とした高校授業体験を3回（6、10、1月）、土曜日の午後に実施した。国語・地理歴史・公民・数学・理科・英語・情報・芸術・家庭の9教科が講座を開講した。

(2) 8月に中学生対象の部活動体験入部を実施し、本校のサッカー、男女バスケットボール、陸上、女子バレーボール部などの部活動が参加して、中学生との交流を深めた。

(3) 本校教員と都立中央ろう学校、豊島区立西巣鴨中学校、豊島区立巣鴨北中学校の教員とが特別支援交流連絡協議会での情報交換を行い、授業参観、部活動見学などを行った。

(4) 本校3年生が、8月に4日間、豊島区立西巣鴨第二保育園において保育体験実習を行った。



保育体験実習

3. 成果と課題等

【成果】

(1) 保育園児や中学生、特別支援学校生徒など、異年齢や異校種との交流を通じて、思いやりや、社会性、協働性などの豊かな人間性の育成が図れた。

(2) 地域との連携が深まり、「開かれた学校づくり」の推進につながるとともに、本校の理解と信頼確保に一定の効果があつた。

【課題】

連携先との日程などの調整及び実施に向けての体制づくりなど、コーディネート面で多くの時間がかかった。組織的、計画的な取組を進め、事業を円滑に運営する必要がある。



特別支援交流連絡協議会